

自主調査研究報告 [完了報告]

寒地港湾技術の体系化に関する調査研究 (他 2 A-3-③)	大分類	他 2 A
	中分類	他 2 A-3

1. 目 的

北海道の港湾整備は明治時代から本格的に進められ、その整備に関する資料が当センターに現存している。また、会員から寄贈された貴重な文献も数多くある。これらの歴史的文献には、港湾整備の際の施設計画、予算、整備手法などに関しての経緯や内容も記されているが、古いものが多く印刷の劣化や紛失などの恐れも懸念されている。これらの歴史的文献も含め当センターが保有する様々な技術や情報に関する資料は、後の港湾・漁港整備や研究等の参考として貴重なものであるが、十分に利活用されていないのが現状である。

当センターが保管する蔵書（歴史的文献や技術資料）の利活用が少ない現状を踏まえ、より多くの方々が利用し易いような策が必要である。また、老朽化している歴史的文献はデジタル化して後世への貴重な資料として保存するとともに、広くその存在を知っていただくことも必要である。これらの課題に対する解決策の検討・実行を通じて、寒冷地港湾の様々な技術情報を提供するサービスの利便性向上を図り、港湾・漁港整備や各種研究等に携わる多くの方々に当センターの蔵書を役立てていただけるようにする。

2. 実施内容

本研究の目的にしたがい、3つの柱に沿って研究を進める。

- ① 図書サービスの利便性向上
- ② 歴史的文献のデジタル化

③ 利用促進に向けた情報の発信

2.1 図書サービスの利便性向上

図書サービス利活用の現状を把握し、図書サービスの利便性を向上させるための方策を検討・実施する。

2.2 歴史的文献のデジタル化

当センター蔵書（文献・技術資料）の全体を把握し、デジタル化すべき歴史的文献を抽出する。本研究において歴史的文献の一部デジタル化を実施する。

2.3 利用促進に向けた情報の発信

図書サービスの利用促進に向け、情報の発信を検討する。

3. 主要な結論

3.1 図書サービスの利便性向上

- (1) 図書（文献・技術資料）の保存状況と図書リストの全体像、図書の閲覧・貸出状況を整理した結果、少数の限られた方々しか利用していないという実態を把握した。
- (2) 図書検索方法の現状は、図書リストを利用者がPCにダウンロードしてから、リストの検索機能を用いて図書を探すという手間を要し、入力キーワード数も限られるなど課題があると判明した。
- (3) 図書サービスの利便性向上のため、目的の図書をホームページのWEBページ画面から直接探すことができ（スマートフォンでも）、複数キーワードでの検索も可能で、スマートフォンでも手軽に検索ができるシステムを構築した。

3.2 歴史的文献のデジタル化

- (1)当センター保有の貴重な歴史文献として145冊を選定し、その中から道内港湾との関連性、他での保有が少ない希少性、老朽化の度合いなどを基準にして、デジタル化すべき17冊の文献を抽出した。
- (2)デジタル化候補の中から特に老朽化の著しい文献を6冊選び、試行としてスキニングを行い、貴重な文献が破損しない取扱方法や、必要な作業時間なども把握した。

3.3 利用促進に向けた情報の発信

- (1)図書サービスの利用促進には、当センターに貴重な文献や役立つ技術資料が存在することを多くの方々に知ってもらうことが重要である。

4. 今後の対応

4.1 図書サービスの利便性向上

構築した新たなシステムを運用しながら、利

用者の動向や管理面での課題等も把握し、機能の付加なども考えて行く必要がある。

4.2 歴史的文献のデジタル化

デジタル化して保存すべき文献のうち、残りの11冊についてスキニングを随時進めるとともに、デジタル化した文献を閲覧できるサービスについても考えて行く必要がある。

4.3 利用促進に向けた情報の発信

当センターの保有する貴重な図書について、ホームページや機関誌など様々な媒体等を通じて、会員以外の方々も含め多方面へ広く紹介する情報発信を考えて行く必要がある。

今回の自主研究の成果及び今後の課題などは、当センターの行っている図書サービス及びホームページ等の業務へ引き継ぎ、寒地港湾の整備や研究に役立つ情報提供の促進に役立てて行きたい。